

2024年12月13日 第3494回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 高橋 会長

<斉 唱> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> *横須賀市教育長 新倉 聡 様

<ビジター紹介> *横須賀西ロータリークラブ 堀川 将史 様

<会長報告> *第1グループ会長幹事会 報告

- ・マイロータリーの登録率アップについて
- ・2025年1月7日(火)の合同例会開催について

*第6回理事役員会 報告

- ・親睦旅行の費用について
- ・新会員について
- ・1万メートルプロムナードクリーン作戦(2025年3月9日)について
- ・第3500回例会(2025年2月7日)の卓話について

*ガバナー事務所より

- ・国際ロータリー第2780地区2027-2028年度ガバナー確定宣言
前田長生会員が2027-2028年度ガバナーとして指名されました。
- ・地区立法案検討委員会セミナー開催のご案内について
日時：2025年1月24日(金) 15:00受付開始 15:30開会
場所：第一相澤ビル 8F・6F・3F会議室
- ・青少年交換 派遣候補生・来日学生合同オリエンテーションのご案内について
日時：2025年1月11日(土) 15:00~16:30
場所：第一相澤ビル8F会議室

<委員長報告> *齋藤(眞)米山奨学生カウンセラーより米山学友主催「国際交流会・忘年会」報告

*ローターアクト委員会大野委員長より地区ローターアクト第36回地区大会 報告

*高橋会長よりクラブ公共イメージ委員会、地区イメージ委員会合同委員会及び
会員維持・増強に関する意見交換会 報告

<幹事報告> *ガバナー月信 No. 6

*例会終了後プログラム委員会 開催

<出席報告> *出席委員会 角井副委員長より12月13日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メークアップ数	出席率
117名	105名	65名(3名)	40名	6名	65.74%

メークアップ：小沢、北村、小林(康)、田邊、長尾 各会員 ロータリー研究会出席
鈴木(之)会員 地区委員会出席

<ニコニコ報告>

- ・堀川 将史 様(横須賀西RC) 横須賀RCさんはとても勉強になりますので今回も訪問させていただきました。様々な業界の人と出会えて毎回とても貴重な機会と感謝申し上げます。
- ・三 役 横須賀市教育長 新倉 聡様、本日はお忙しい中有難うございます。卓話宜しく願いいたします。
- ・児玉、田中、岡田(圭)、大野(健)、梁井、八巻、川名、新倉、齋藤(眞)、小平、浅葉、江沢、森、波島、齋藤(健)、徳永、杉浦、杵(洸)、澤田、吉田(久)、萩原、加賀本、谷、真野、平松、前田 各会員
横須賀市教育長 新倉 聡様お忙しい中、ようこそ横須賀RCへお越しいただきました。本日の卓話どうぞよろしく願いいたします。
- ・木村、小澤、齋藤(眞)、角井 各会員 横須賀西ロータリークラブ堀川 将史様、ようこそお越し

くださいました。ごゆっくり例会をお楽しみください。

・三井 会員 誕生月祝いとして

・大石、小澤、加藤 備、椿、新倉、岩崎、八巻、
江口、佐久間、齋藤 眞、勝見、江沢、八木、波島、
野坂、杉浦、杵 渕、吉田 備、澤田、齋藤 眞、加賀本 各会員

前田長生会員、国際ロータリー第2780地区2027—2028年度ガバナー確定おめでとうございます！横須賀RCに新しい歴史が出来ますね。皆さんで盛り上がっていきましょう。

・梶木、権田、石田、寺田、三井、比護 各会員

12月半ばになると寒さも本格的になります。先日芸能人の方が浴室で亡くなられたように年間ヒートショックで亡くなる方が2万人になるようです。皆様も入浴時の温度差や飲酒には十分に気を付けて下さい。

<卓 話>

「横須賀市児童生徒数等の状況」

横須賀市教育長 新倉 聡 様

横須賀市教育長の新倉聡です。高橋会長からご案内をいただき、本日、横須賀ロータリークラブの例会で卓話をさせていただくこととなりました。お招きいただきありがとうございます。

ロータリークラブの会員の皆さんには、日頃より横須賀市の子供たちの育成に多大なご尽力をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

「教育」という課題は、すべての皆様が義務教育を受けた経験から、つとに身近な問題としてとらえていただいております。教育委員会へ「ああすれば」「こうすれば」とご意見をお多くいただいております。嬉しい反面、厳しいご意見にはいつも苦慮しています。

本日は、今後の教育を考えるために、最も基本となるであろう児童生徒数の現状の基本データを皆様と共有させていただき、直面している課題をお話しさせていただければと思っています。

なお、本日の私の発言は、教育委員会としてオーソライズされたものではなく、あくまで、私、個人が今考えている私見であることをご理解ください。どうぞよろしく申し上げます。

<人口の推移と出生数>

横須賀市の人口が急速なスピードで減少していることは、マスコミ報道等でご承知かと思えます。本市の人口は、平成5年の439,280人をピークに、この20年間で6万人近く減少しています。65歳以上の老年人口が7万人近く増えている一方、15歳から64歳の生産年齢人口が10万人の減、また、年少人口も2万5千人減少しています。この推移からだけだと、高齢の方は本市から離れることなく、若い方々が市外へ転出することから人口が減っていると読み取れるかと思えます。確かに、成人年齢前後は、進学、就職等で市外へ転出する方が大勢いることは事実です。しかし、その大きな要因は、日本全国の課題である「少子化」にあると捉えています。

出生率等の推移を見ると、20年前の平成5年には3,621人の新生児が生まれていましたが、直近の令和4年では、1,824人と半減しています。これまで、マスコミ等では、合計特殊出生率が1.27だとかその数値自体を問題としてきました。確かに、一人の女性が生涯に産むこの数は一つの基準ですが、仮にこの数値が上がっても、母数である女性が増えない限り、人口増加の要因とはなりません。実際の出生数の増加が必要です。

<横須賀の小中学校は変化しているのか>

このように人口、特に年少人口が減っていながら、小中学校の学校数は何も変わっていませんでした。平成25年に平作小学校と坂本小学校が、また、上の台中学校がそれぞれ近隣学校に統廃合されましたが、その後、学校数は変わっていません。当時は、まだ児童生徒数の減少が緩やかだったためか、教育委員会の対応が遅かったと言われてもしかたありません。

<小学生の減少の状況と見込みは>

では具体的な状況を見てみましょう。平成25年当時ではまだ緩やかな減少と想定していましたが、その後の児童数の減少は想定外でした。平成25年当時2万人を超えていた児童数は、令和6年5月では15,672人と25%の減少となっています。

一方で、「学級数」は減少していません。これは後程お話ししますが、現在の課題でもある「特別支援学級」が増加しているためです。児童数が減少すれば学級数も減ります。しかしながら、普通級に入れない支援を必要とする児童が増えており、特別支援学級が増加しています。大きなターニングポイントは平成18年がありました。当時「発達障害」という言葉が大きくマスコミ等に取り上げられ、一つの診断名として周知されるようになります。ご承知のように、発達障害とはアスペルガー障害、ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）などと呼ばれているもので多岐にわたります。保護者の方々は、ご自分のお子さんにきめ細かい対応を求めたことから「特別支援学級」、特に「情緒級」の開設が増えてきたことによります。

<今後の児童数はどうなる？>

さて、今後の小学生児童数はどうなるのでしょうか？小学校入学は6歳（7歳になる年齢）ですから、令和12年度まではすでに生まれた子さんの出生数がわかっていますので、ある程度確定的な児童数が推計できます。令和6年の15,672人の児童数は、令和12年には11,819人と推計しており、わずか6年で3,800人余りの児童が減ることになります。

<中学生はどうでしょうか？>

出生数の減少は、小学校より遅れて生じます。平成28年までは1万人を超えていましたが、令和6年には8,500人を切ってしまいました。15%の減少です。特別支援学級に通う生徒数は小学校と同様に増えている状況です。

<今後の生徒数はどうなる？>

今後中学校に通う生徒数は、小学校1年生まで把握できていますから、令和12年まではほぼ確定していると言っていいかと思います。令和12年には7,325人となり、約1,000人が減少します。

<教育委員会が取り組むべき課題>

これまでお示したデータからは、かなり悲観的なお話に聞こえてしまったのではと思っています。少子化を迎えた学校教育を持続的に支えていくためには、今お話ししたデータ等を踏まえ、取り組むべき課題を整理する必要があります。本来なら、教育委員会の方針としてお示しすべきですが、来年度の予算等にかかわる部分や局内検討の部分があることから、私の個人的な意見として述べさせていただければと思います。

1) 学校規模の適正化

今後6年間の児童、生徒数は減少します。一方で学校数は変わっていません。横須賀市内の人口分布も偏在しており、国が示す適正規模校（通常学級12～24）を満たしているのは、小学校46校中30校（児童数が100名以下は5校）、中学校23校中8校（生徒数が200名以下は4校）となっています。

このことは、一学年1クラスのため学級替えが行えないことを意味します。その結果、学級内でのいじめ、争いがあっても同一クラスで過ごさざるを得ない場合が生じ、結果、不登校、転校を余儀なくされることが想定されることから、一定規模校として再構築することが必要となっています。

令和4年度から、このような小規模校の統廃合に取り組み、令和7年3月に、田浦小学校と長浦小学校を、走水小学校と馬堀小学校とを統廃合することを決定したところです。

横須賀市は、半島の中心部に山が尾根となっており、大きく東京湾側と相模湾側に分かれ、またそれぞれの尾根の間に谷戸があり村落を形成してきました。多くの小学校はその村落の学びの場所となっていることから、統合するには、通学方法や地域のお住いの方々の理解とご協力が欠かせません。令和7年度以降は小学校に限らず、中学校についても検討を加え、小規模校の改善と合わせ、学校施設の再整備に取り組まなければなりません。

2) 支援を必要とする児童・生徒の環境整備

児童生徒間での諍いがいじめなどの重大案件とならないよう学校規模の適正化を進めるだけでなく、先に申し上げたように支援を必要とする児童生徒が増加しています。特別支援学級の増加は特に顕著で、平成18年と比較すると、小学校では56学級が195学級と3.5倍に、中学校では32学級が80学級と2.5倍に増加しています。

一方で、それぞれの事由により、学習についていけない、朝起きられない、親御さんの考えからか「行きたくなければ、行かなくても良い」等、年間に30日以上欠席する不登校の子どもたちも増加しています。学校、教師との関係が希薄になっていることが支援を難しくしていると捉えており、改めて、教師と児童生徒のコミュニケーションを重視する体制を作らなければと思っています。

3) 教職員の働き方改革

学校づくりの中心である「教職員」の働き方にも注目が集まっています。人口減少の結果、「人が減りサービスが減る」社会が来ると狼少年のように叫んでも事態は改善しないため、国は、「働き方を改善しよう。少しでも労働時間を減らそう」と言う声掛けをし、そのために、AIやICT技術などを活用することで「人の替り」を補うことを求めています。

さて、教育現場では、どうすればよいのでしょうか？タブレットなどの通信技術を用いて「情報」、「知識」を伝えることは可能ですが、人間同士の感情の交錯（いわゆるコミュニケーション）や集団活動での日々の経験を子どもたちに教えることが機械でできるのでしょうか？特に、中学校では部活動の指導に土・日曜に付き添うことが多いことから、教職員の労働時間の短縮と子どもたちを育てるための時間の確保と言う二律背反の命題に直面しています。

<最後に>

改めて、本日お伝えしたかったことを整理すると、

- ① 児童生徒の減少は10年程度続く
- ② 過大とも思える学校施設は、児童生徒数に応じて適正規模に是正しなければならない
- ③ 子どもは減っても、個々の事情により支援を必要とする子どもは増加していく
- ④ 「先生」の環境・立場が大きく変容している

といったことが、現在の教育現場の課題であり、横須賀市教育委員会としてその解決に取り組まなければいけないことと認識しているところです。ご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 高橋 会長

週報担当 権田 理司